



やすくなります。極端な早播きは避けるようにしましょう。

ハウス春どりや初夏どりでは低温のためトウ立ちしやすいので、トウ立ちしにくい品種を選ぶとともに、地温を高めるために穴あきの緑マルチを張ります。播種は、マルチの穴に合わせて行います。さらに、不織布のベタがけとトンネルとを併用して気温の確保も行います。根の直径が2cm位になるまでは、晴天日もトンネルを密閉し、日中35℃くらいを目安に管理します。その後は徐々に換気して、収穫1か月くらい前からは日中20℃程度を目安に管理します。

【間引き・追肥】本葉4～5枚の頃に1本にします。その際、生育の悪いものや葉の形の悪いもの、病害虫に侵されたものを間引きます。マルチをしない栽培では、最終の間引き後、高度化成肥料を1m<sup>2</sup>当たり30g程度条間に追肥し、中耕して株元へ土寄せをします。

【収穫】す入りは生理現象で、ある程度の日数が経過すればどんなダイコンでも起こります。秋作では大きくなってから現れますが、春作では小さいうちからでも発生します。収穫が遅れるとす入りとともに裂根するので、根の肥大が進んだものから早めに収穫するようにします。

#### 4) 病害虫防除

害虫としては、キスジノミハムシが多く発生します。根部に穴状の食害痕を作り、外観品質を大きく低下させます。また、食害痕から病原菌が侵入し、内部の維管束を黒変させることもありますので、播種時に粒剤を施用するとともに、播種後も定期的に防除を行います。

病害としては、根くびれ病などが発生し、外観品質を大きく損なうことがあります。圃場が長時間湛水すると多発する傾向がありますので、特に露地栽培では高畝にして排水性をよくするなどしてください。

